

SALT&SEAWATER SCIENCE SEMINAR 2007

日本の塩づくりを支え、未来を築く海水総合研究所

Program

- 1 講演1 「わが国における塩づくりの歴史と海水総合研究所が果たしてきた役割」
- 2 講演2 「わが国の塩づくりを支え、未来を築くために」
- 3 講演3 「塩とともに豊かな食生活を育むために」
- 4 講演4 「安全・安心をより確かなものに」
- 5 講演5 「豊かな海を守り、恵みを得るために」
- 6 ポスターセッション

会場案内および
問合せ先

コクヨホール

東京都港区港南1-8-35

【最寄=品川駅】
港南口徒歩1分】

TEL
03-3450-3712

URL
<http://www.kokuyo.co.jp/showroom/hall/>

問合せ先

〒256-0816

神奈川県小田原市酒匂4-13-20

財団法人 塩事業センター 海水総合研究所

Tel : 0465(47)3161 Fax : 0465(48)6242

URL : <http://www.shiojigyo.com/a060laboratory>

E-mail : kouenkai@hq.shiojigyo.or.jp



財団法人塩事業センター 海水総合研究所主催

11月20日(TUE)

13:00~17:00 (12:00開場)

入場無料、お申込不要

協賛団体

(社)化学工学会、(社)日本粉体工業技術協会、
分離技術会、(社)腐食防食協会、日本調理科学
会、(社)日本分析化学会、日本海水学会、(財)
ソルト・サイエンス研究財団 ※順不同



What's Research Institute of Salt and Sea Water Science?

海水総合研究所とは

海水総合研究所は、1949年に日本専売公社小田原製塩試験場が発足して以来、わが国固有の塩づくりを築き、さらにその基盤強化のために行ってきた様々な研究を引き継ぐ形で、1996年7月に財団法人塩事業センターの設立とともに発足しました。

1997年に塩専売制度が廃止され、新たに「塩事業法」が施行されたことを契機に、塩事業センターにおける調査研究事業の中核として、「わが国塩産業の健全な発展」を使命とし、製塩技術だけでなく、広く消費者の皆様に関する科学的な情報をご提供するための研究にも取り組んでいます。

Presentation 1

わが国における塩づくりの 歴史と海水総合研究所が 果たしてきた役割



瀧脇 哲司 Tetsushi Fuchiwaki

農学修士
研究員

海水ろ過技術を中心として活躍する製塩技術の将来を担う研究者。濁質成分の性質を明らかにすることにより、これまでにない海水ろ過に最適な装置を設計し、現在、実用化試験中。剣道、フットサル、卓球などを得意とするスポーツマン。

岩塩などの塩資源に恵まれず、高湿多雨なため海水を天日で蒸発させて塩(天日塩)をつくることができないわが国では、古くから海水を一旦濃縮して濃い塩水とし、この塩水を煮詰めて塩をつくってきました。このような方法は、世界でも稀な技術として「塩田法」から「イオン交換膜法」へと進化し、現在では国内で生産される塩の80%以上が「イオン交換膜法」によって生産されています。

こうした塩づくりの歴史の中で、海水総合研究所が果たしてきた役割は大きく、その前身である小田原製塩試験場が発足した当時、革新的な技術であった「イオン交換膜法」の実用化に取り組むなど、現在まで、わが国の塩づくりを支えるとともに、「安全・安心で、低廉な用途に応じた使いやすい塩とは何か」をキーワードに研究開発を行ってきました。

本講演では、先人たちが積み上げてきたさまざまな工夫と技術革新を、世界の塩づくりとも比較しながらお話し、その中で海水総合研究所が担ってきた役割についてご紹介いたします。